

情報活用能力を高める研究

I 研究の内容

1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践を観察し、研究協議を行う。
- (2) 主に小学校中学年の社会科を中心に、子どもが学習に利用できるような、東山梨の地域素材をまとめた、デジタル教材の作成を行う。
- (3) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。
- (4) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った情報交換を行う。

2 研究の具体的内容

(1) 授業研究と検証

① 9月6日 6学年 総合的な学習の時間（情報）

授業者 三森 公仁 教諭（勝沼小学校）

「ホームページを作ろう」

下級生が、効率的に調べ学習を進められるようなwebページのリンク集を、学校のホームページに載せる活動を通して、情報社会に参画する態度を育成する取り組み。授業では、グループごとに載せたいwebページの内容や、載せたい理由について発表し合い、質問、意見、感想などのやりとりがなされた。

② 1月31日 6学年 総合的な学習の時間（情報）

授業者 荒井 祐貴 教諭（後屋敷小学校）

「情報モラルについて学ぼう」

異なる3つのチェーンメールの事例に対し、それぞれ、自分ならどうするか、また、どうしてそのように判断するのかを考え、それを発表し合う活動を通し、情報モラルについて正しく理解させる実践。

(2) 東山梨地区の地域素材のデジタル教材化

- ・昨年度に引き続き、ホームページ作成ソフトを用いて、HTML形式で地域素材の教材を作成した。本年度は、部員の在籍しない学校の校区についても取材活動を行い、東山梨地区すべての小学校区を網羅することができた。
- ・山梨、甲州支会ごとに責任者を決め、内容や形式を確認し合いながら活動を進めた。

- ・ 中学年で利用できる社会科副読本的位置づけというテーマを設定し操作性や視覚的統一性を考えてデジタル教材としてまとめた。
- ・ 11月の部会で、データをCDにしたものを部会員に配付するとともに、東山梨地区すべての小学校にも配布をし、活用できるようにした。

(3) 情報活用能力を高める研修

本部会の世話人でもある近藤英夫教頭先生（祝小）に講師をお願いし、画像処理ソフト（J-trim）についての操作方法などの講習会を行い、教員の情報活用能力も向上した。

II 成果と課題

1 成果

- ・ 2本の研究授業（総合的な学習の時間）を通して情報活用能力を高める方法を検証できた。
- ・ 甲州市、山梨市のすべての小学校区の地域素材が、統一された内容、形式で活用しやすいCD教材として形となったことは大きな成果といえる。
- ・ 研修会やデジタル教材を作成する過程において、教員のスキルも向上した。
- ・ 県教研の還流報告や、先進校の県外視察の還流報告などから、有益な情報を得ることができた。

2 課題

- ・ 情報モラルに関する児童の学習は急務であり、部員自身、情報モラルについて、もっと研究を進めていく必要がある。
- ・ デジタル教材については、自分の授業に生かすとともに、どのように利用していくか活用計画や活用事例を考え、今後、他の先生や学校にも広め、有効に利用していくことが望まれる。また、更なる内容の充実も図っていきたい。
- ・ 部会が、各校の日頃課題としていることについて情報交換をする場としても機能するといひ。

III 成果物

- 学習指導案 「ホームページを作ろう」 6年 総合的な学習の時間（情報）
- 学習指導案 「情報モラルについて学ぼう」 6年 総合的な学習の時間（情報）
- デジタルCD教材「東山梨地区地域教材ver2.0」

（部長 川崎 剛）